

令和6年度 市民の声一覧（上半期公表用）

受付月	分類	件名	市民の声	回答(対応)内容	回付先
6月	健康・医療・衛生	不妊治療助成について	高知市は40歳以上の不妊治療助成がないのは残念です。県の助成についても高知市を除く設計で、40歳以上は諦めた方がいいというメッセージに思えます。他県と比較しても高知市で暮らすことが不利になっています。不妊治療に対する医療機関も少ない中、他県並みであるか、または有利である街であってほしいです。	本市では、令和4年4月から不妊治療の一部が保険適用化されたなか、比較的高額な費用を要する体外受精及び顕微受精を受けたご夫婦等の経済的な負担の軽減を図るため助成を行っております。一般的に不妊治療に時間を要すること、また、依然として治療に至るまでのハードルが高いことも考慮し、早期の治療を促すものとして現在の不妊治療助成事業を実施しております。ご指摘いただきました、高知県の助成が高知市を除く設計であることにつきましては、現在、高知県が有識者検討会を立ち上げており、これに高知市も参画しているところです。当該会議では、高知県と高知市で制度をそろえるべきことも含めて検討しております。こうした検討等を重ね、今後の不妊治療助成のあり方について考えておりますので、引き続き本市の不妊治療助成につきまして、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。	母子保健課
9月	健康・医療・衛生	带状疱疹予防ワクチンの助成金	コロナ後に爆発的に増えてきているデータがあります。最近ワクチン予防を促すCMが流れ始め、実際、罹患した人が周囲に大勢いて、インフルエンザ、コロナと同じレベルで不安です。全国的に助成金の実施が増えてきています。高知市でも一刻も早く真剣に助成金交付を取り組んでいただきますようお願い致します。	带状疱疹ワクチンの助成金交付についてご意見をいただきました件について、現在国で带状疱疹ワクチンの定期接種化に向けて検討を重ねている段階です。また、市独自の助成金交付には財政負担も大きく現時点において高知市では助成金交付に至っていない状況です。しかし、ご意見にもありましたように带状疱疹に罹患される方は50代から急激に増加し、数のピークは、70代であることが分かっております。多くの場合は軽症ですが罹患された一部の方では合併症を起こすことがあり、疾病による負担が大きくなっております。合併症の予防として带状疱疹ワクチン接種以外にも医療機関での発症早期の抗ウイルス薬の治療が有効です。带状疱疹ワクチンはその種類により差はありますが発症予防効果は示されております。ただし現時点におきまして、予防接種法に基づく予防接種には指定されていないために、個人の意思に基づいて予防接種を行ういわゆる任意予防接種の位置付けとなっております。そのため接種後の副反応による予防接種健康被害救済制度の対象となっております。国の動向にも留意しながら、今後も市民の皆様が安心して生活ができるようにワクチン接種の体制を確保していく必要があると考えております。	地域保健課